

豪州の4-6月期実質GDPは2012年以来の高い伸び

- 豪州の4-6月期実質GDPは前期比+0.9%と市場予想を上回る。前年比では+3.4%と12年7-9月期以来の高い伸び。
- 4-6月期GDPは「18年上半期の豪州経済はトレンドを上回る成長となった」との豪州準備銀行の景気判断とも整合的。
- 17年以降の豪州経済の拡大局面では、民間消費の安定や投資の拡大といった内需が経済成長の押し上げ役に。
- 4-6月期は企業収益も堅調に拡大し、賃金総額も回復傾向。豪州景気拡大の恩恵は企業部門から個人部門へ。

4-6月期の実質GDPは予想を上回る高成長に

豪州の2018年4-6月期の実質GDPは前期比+0.9%と1-3月期(前期比+1.1%)に続く高い伸びとなり、市場予想(+0.7%)も上回りました(図1)。また、前年比ベースの実質GDP成長率は+3.4%へ加速し、2012年7-9月期以来の高成長となりました。

豪州経済が4-6月期も底堅い成長を維持したことは、9月4日の豪州準備銀行(RBA)の政策理事会で示された景気判断(「2018年上半期の豪州経済はトレンドを上回る成長となったと推定される」)とも整合的と言えます。RBAの経済見通しでは、2018年と2019年の豪州の経済成長率は平均して3%をわずかに上回ると予想されています。

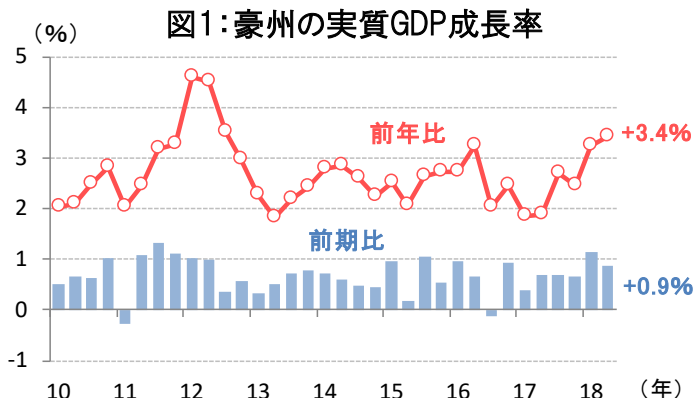
内需が豪州の経済成長率の押し上げに寄与

2017年以降の豪州経済の拡大局面では、内需が経済成長の押し上げ役になってきました(図2)。実質GDPの約6割を占める民間消費は引き続き安定的に経済成長率を下支えしているほか、足元では公共インフラ投資や設備・建設投資などが成長の押し上げに寄与しています。

景気拡大の恩恵は企業部門から個人部門へ

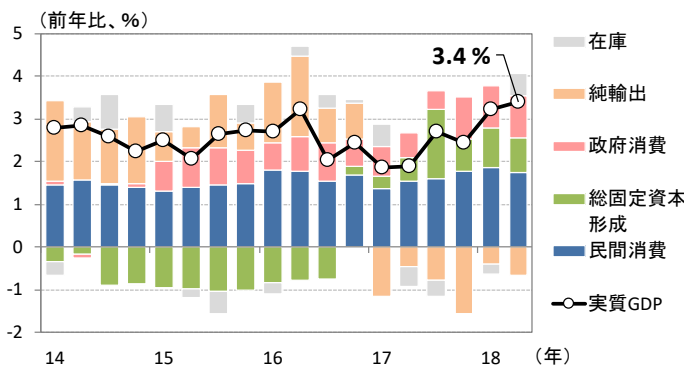
底堅い豪州景気を背景に、4-6月期の豪州企業の営業利益も前年比+11.4%と堅調な伸びを示しました(図3)。豪州景気の拡大の恩恵は、当初は企業収益の回復の形で企業部門が中心的に受けてきました。しかし、足元では企業が労働者へ支払う賃金総額も回復傾向にあり、個人部門にも景気拡大の恩恵が広がり始めています。

インフレ圧力が依然として弱中、今後の焦点は、豪州景気の底堅い拡大が雇用環境の引き締めを通じて、賃金上昇やインフレに波及するかに集まりそうです。



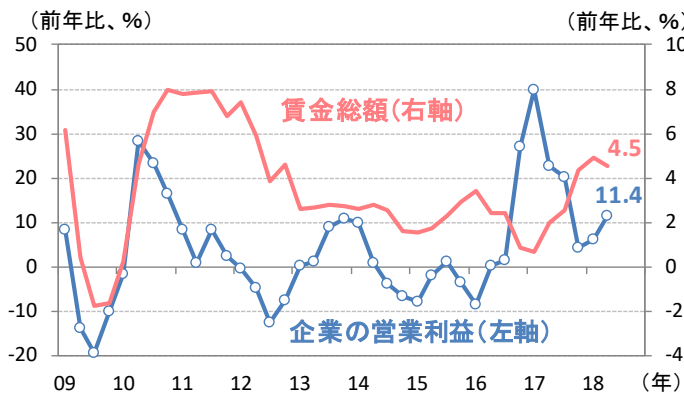
(出所) 豪州政府統計局(ABS) (期間) 2010年1Q~2018年2Q

図2: 豪州の実質GDP成長率の寄与度分解



(出所) ABS (期間) 2014年1Q~2018年2Q

図3: 豪州企業の営業利益と賃金総額の推移



(出所) ABS (期間) 2009年1Q~2018年2Q

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。